

令和2年度 地歴公民科 研究協議会

【日 時】 令和2年10月28日(水) 9:40~10:10

【場 所】 職員室後方

【参加者】 川井 正仁(司会)、櫻田 博憲、後藤 弘康、
佐々木 周子(記録、授業者)

1. 授業者より感想

授業を実施し、反省点が3つある。

まず、資料の誤りである。配付資料のCの数値の小数点を打つ場所が異なっていた。教材資料のコピーでは見にくいかと思って表を作成し直したことが仇となった。今後、絶対に無いようにしたい。

次に、導入部である。参観された先生方に授業の感想をいただいたところ、指導案では、生徒の活動が「気づく」になっていたが、果たして「気づき」になっていたかどうかをご指摘いただいた。確かに、主体的な気づきにはなっていなかったと反省している。BLM運動という今注目されているニュースから興味関心を惹こうとしたのだが、対象生徒の心には刺さらなかったようだ。生徒が自ら「調べたい」「知りたい」と思える導入を研究したい。

最後に、研究授業としての見せ場がなかったことである。活動に時間を割き、じっくりと考えて書いてもらったのだが、意見を発表し合い、共有する活動がおろそかになってしまった。授業構成をよく考えていきたい。

2. 協議会参加者より、助言・指導

(後藤先生)

非常に難しいテーマで、どうまとめるかが問題だった。だが、作業時間が長かったため、まとめがうまくできていなかった。資料を選んで意見を述べるという活動はよいと思う。ただ、まとめ方が難しくなるため、まとめをどうするかを考えた資料の取捨選択が必要であろう。

(櫻田先生)

「子どもの貧困」という難しい問題を取り扱っていると感じた。資料が多すぎると生徒の思考がいろいろなところへ向かってしまうため、一定の方向へ向くような教材や資料に限った方がよい。授業の落としどころが重要である。

(川井先生)

家庭環境を考慮すれば、問題の取り扱いが難しいテーマである。授業に関しては、導入部に時間がかかりすぎた。機材トラブルで4分、その後16分も導入に使用している。導入部を簡潔にし、生徒の活動やまとめに時間をかけるべきであった。また、生徒の記述時間が長かったが、個人で考え、グループで話し合い、発表するというように、活動時間を区切るべきであった。